

1) 活動の背景

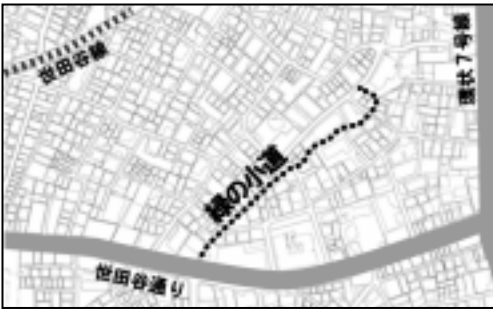
若林三、四丁目地区内に位置する緑の小道は、田園風景が広がっていた頃の名残として、以前は水路として使われていた。しかし、その水路が暗渠となり、いつの頃からか、沿道の方が物置を置いたり、庭として使うようになり、公共的な空間として使用できなくなっていた。民法上の不法占拠の状態にあり、地区内でも、その問題を指摘する声があがっていた。

街づくりの会では、街の現状を確認し、「街づくりのルール」を検討する過程で、この問題も取り上げられた。

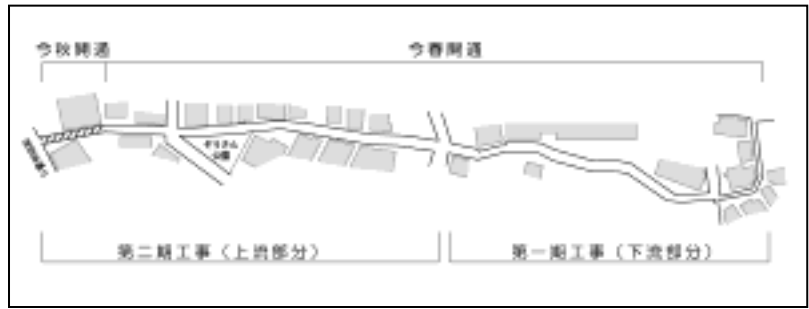
地区内は細街路や行き止まり道路が多く、ポケットパーク等の公共緑地も少ない状況である。こういったことから、「水路敷きを緑道にするのはどうだろうか？」といった案が出された。災害時には、世田谷通りまで通り抜けられる避難通路として活用し、日常的には地区の憩いの場ともなるように整備していくという共通認識が得られ、平成10年の初めに作成された「地区街づくり計画(案)」には、その内容を盛り込んでいる。

その後、下流部分については、平成10年からL型側溝、路面の砕石舗装等の整備が始まった。街づくりの会は、その頃には協議会に発展しており、世田谷区より整備状況の報告を受けて、緑の小道に植える植物の案や、維持管理の方法等を意見交換している。

図表 6：緑の小道の位置



図表 5：緑の小道の整備状況



今回のワークショップで取り上げられた「公園管理協定⁵」についても、この時、世田谷総合支所街づくり部の担当者から、制度の紹介をいただいている。維持・管理にあたっては、剪定方法や道具の管理、ゴミの処理方法、水源の確保などの課題が出た。それらについては、月をまたいで回答をいただいたが、清掃の制約条件(週に一度のペースで行う)等から公園管理協定の締結は見送り、覚書を結ぶこととなった。

そして、第一期工事部分(約140m)のうち約100mについて、

- ・除草
- ・植栽樹木の灌木、剪定及び整枝
- ・小道内の施設もしくは樹木が損傷された場合又は利用者に事故が起きた場合に、必要に応じ、速やかに連絡する

といった維持・管理を行うこととして、協議会と世田谷区との間で正式に覚書を交わしている。

図表 7：「生け垣剪定講習会」、清掃の様子



これを受け、協議会では、平成11年3月から供用が開始された第一期工事部分で、「緑の小道の生け垣剪定講習会」の開催や清掃といった維持・管理活動をスタートさせた。清掃を行ってみると、緑の小道で遊ぶ子どもや散歩で利用する大人が、意外と多いことを感じ取ることができた。しかし、世田谷通りにつながる上流部分については、水路敷きの占有が続いている状態で、避難通路として活用することは期待できず、散歩道としてはあまりにも短い距離である。

そこで、協議会では、世田谷区土木課と世田谷総合支所街づくり部

長宛に、「水路敷き部分の早期開放と世田谷通りまでの開通」を要望書として提出することになった。

また、降雨時には水が溢れ、水浸しになってしまう状況であったため、同時にせせらぎの設置を検討するよう要望を出している。

その結果、せせらぎの設置については、「道幅があまりにも狭いため、せせらぎの設置は難しいが、水の問題については、専門のセクションで調査する」という回答をいただいた。

上流部分については、世田谷総合支所街づくり部の担当者が沿道の一軒一軒と協議を重ね、平成12年度に境界確定作業が、平成13年度に下水道の埋設工事が行われた。そして、今年度にあたる平成14年度には、下流の第一期工事部分も含め、表層整備を行っている。この整備工事も3月中旬には完成し、ようやく世田谷通りまでの開通が目前に迫っているところである。緑の小道沿道では、整備によって陽当たりが良くなり、避難路ともなる緑の小道への出入り口が設けられる等の配慮がなされている。

図表 8

| 平成8年 | 平成9年 | 平成10年 | 平成11年 | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 | 平成15年 |
|---------|---------------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------|------------------|---------------------------------|-------|
| 街づくり懇談会 | | | | | | | |
| | 3月「若林3・4丁目街づくりの会」発足 | | 10月「若林街づくり協議会」発足 | 「街づくり提案書」提出 「地区街づくり計画」策定 | | | |
| | | | | 「地区計画」策定 | | | |
| | | 「水路敷きを緑道に」との提案 第一期工事開始 | 第一期工事整備状況の報告を受ける ～維持・管理についての検討～ 維持・管理に関する覚書交換 第一期工事完成、供用開始 | 上流部分の境界確定作業開始 | 第二期工事開始（下水道埋設工事） | 全区間の表層工事開始 世田谷通りの入り口を除く部分が開通 | |
| | | | 「緑の小道」の維持管理活動 | | | | 全面開通 |

2) 活動の経緯と目的

緑の小道の整備状況については、協議会の定例会に世田谷総合支所街づくり部の担当者へ出席いただいて、逐次報告を受けていた。「若林街づくりニュース」では、その整備状況を記事にし、地区のみなさんにも情報を提供している。

今年度に入り、緑の小道の全面開通に目途がたったことにより、協議会では開通後の維持・管理が、議題に上ることが多くなった。

ひとつは、昨年度から行っている地区計画のPR看板に、緑の小道の紹介を加え、世田谷通りの入り口部分に設置する案である。これについては、世田谷総合支所街づくり部からも緑の小道内への設置に了承が得られ、現在、詳細な打ち合わせ段階に入っている。

もうひとつの議論のテーマは、全面開通により利用者の増加が見込まれるため、これまでの維持・管理方法では、不法駐輪等の問題に対応できないのではないかといった危惧から生まれた。近隣の烏山川緑道や、地区内に設けられた「もみじ広場」では、自転車、バイク等の不法駐輪が後を絶たない。そういった状況に陥っても、安易に撤去すれば問題が大きくなることもある。

また、これまで協議会では定期的な清掃を行ってきたが、緑の小道の沿道に住まわれている方は1名だけである。話し合いの中で、沿道の方が中心となって清掃や植栽樹木の手入れをしていくのが、一番いい状態であるとの意見が多勢を占めていた。しかし、これまでの経緯から、沿道の方の積極的な参加を期待するのも難しい状態である。

そこで、世田谷総合支所街づくり部の担当者へ、協議会の定例会へ出席いただいて、公園管理協定について再度話を伺うことにした。公園管理協定を結んだグループの中には、複数の団体が共同で維持・管理にあっているケースもある。協議会では、沿道の方に参加いただき、緑の小道のこれからの維持・管理の方法、さらには住民が主体となった運営方法を検討していければと考え、話し合いの場を持つ方法をさぐってきた。

そして、今年に入り、資金的な目途が立ったため、ワークショップ形式でその開催を実現することになった。

3) 活動の内容

1. 「緑の小道」の沿道地権者の調査

ワークショップの開催にあたって、まず、緑の小道沿道の地権者の方が、こういった経緯で整備にご協力いただけたのかを調査し、さらに維持・管理にあたっての意向調査をしようと考え、緑の小道沿道の権利調査を計画した。しかし、事前の協議会内の話し合いの中で、「土地を所有しているが、地区外に住んでいる方」が、実際に緑の小道の維持・管理について、関わることは期待できないと判断した。そこで、権利調査については集合住宅、戸建住宅、店舗の別等の属性調査に変更することにした。また、緑の小道整備の経緯については、当時の行政の担当者からお話を伺い、沿道にお住まいの方を対象として、アンケート調査を新たに実施することにした。

2. ワークショップの参加対象者と呼びかけ方法

緑の小道は、これまで一期工事部分の約 140mのみが開通していた。しかし、全区間が開通することによって、利用者が大幅に増加することが予想される。世田谷通りにはバスの停留所があり、緑の小道を北に行くと環状7号線沿いに東急世田谷線若林駅がある。散歩などで利用する他、通勤路としても利用されることが多くなるであろう。

緑の小道の維持・管理は、沿道にお住まいの方のみならず、沿道には住んでいないがよく利用するといった方にも参加いただければ、より良い方法を検討できる。

そこで、ワークショップ開催のご案内は、沿道の方には一軒一軒に手配りにすることにし、利用者と想定される若林三、四丁目地区の方には新聞折込の方法で、ご案内をすることにした。

利用者にも、現在の利用状況や、緑の小道以外のポケットパーク、緑道等の使われ方で気になっていることをアンケート形式で伺うこととした。

図表 9：利用者を対象としたご案内

図表 10：沿道にお住まいの方を対象としたご案内

緑の小道 ワークショップ開催のご案内

今秋、緑の小道が世田谷通りにつながります！

緑の小道は沿道にお住まいの方や土地を所有する方のご協力を得て、整備が進められてきました。取組上先鋭的な役割の資料集の整備を図るため準備がスタートし、完成時には沿道は地区のみならず、沿道に隣接する、実業時には整備路について活躍します。その緑の小道が、今季、一歩開通し、今後は沿道に整備が進んでいくようになります。

どう変わる？

それ以外にも新しい機能も生まれるでしょう。そこで、沿道にお住まいの方や利用者が一緒に、緑の小道の維持・管理について意見を話し合い、沿道が主役となった維持・管理の方法を考えたいと考えています。

ぜひ、ご参加下さい！！

※、維持・管理の方法だけでなく、「緑の小道が3つあります！」「緑の小道で何ができるか？」といったアイデアを話し合い、各自自分で提案する方法も行ってみたいと考えています。例えば、花の種をまき季節ごとに色んな花が咲く緑の小道を開発する、年に一度の小さな音楽会などを実施するなど…ぜひ、ご参加下さい！！

第1回ワークショップ

日時 2月25日(火) 午後2時～3時30分
 場所 世田谷区立若林図書館 レストラン付き
 内容 緑の小道整備の経緯報告と今後の予定 行政制度の説明と事例について

第2回ワークショップ

日時 3月1日(土) 午後2時～4時
 場所 緑の小道管理委員会 その他、若林図書館2階 区民フロアに移動
 内容 緑の小道を歩く～緑道のチェック(40分程度) アンケート結果と第1回のまとめ 現地チェックして見て、問題点は？

第3回ワークショップ

日時 3月12日(水) 午後2時～4時
 場所 若林図書館2階 区民フロア
 内容 維持・管理の方法・アイデアを提案するために

主催 若林駅周辺の整備(世田谷区)の推進を促す会(以下「推進会」)
 協力 世田谷区立若林図書館(以下「図書館」) 株式会社 世田谷開発研究所
 後援 財団法人グリーンランドプロジェクト
 日経ビルド社 株式会社 世田谷開発研究所・東野 電話: 03-9773-2888 FAX: 03-9773-2889

緑の小道 ワークショップ開催のご案内

今秋、緑の小道が世田谷通りにつながります！

緑の小道は沿道にお住まいの方や土地を所有する方のご協力を得て、整備が進められてきました。取組上先鋭的な役割の資料集の整備を図るため準備がスタートし、完成時には沿道は地区のみならず、沿道に隣接する、実業時には整備路について活躍します。その緑の小道が、今季、一歩開通し、今後は沿道に整備が進んでいくようになります。

どう変わる？

それ以外にも新しい機能も生まれるでしょう。そこで、沿道にお住まいの方や利用者が一緒に、緑の小道の維持・管理について意見を話し合い、沿道が主役となった維持・管理の方法を考えたいと考えています。

ぜひ、ご参加下さい！！

※、維持・管理の方法だけでなく、「緑の小道が3つあります！」「緑の小道で何ができるか？」といったアイデアを話し合い、各自自分で提案する方法も行ってみたいと考えています。例えば、花の種をまき季節ごとに色んな花が咲く緑の小道を開発する、年に一度の小さな音楽会などを実施するなど…ぜひ、ご参加下さい！！

第1回ワークショップ

日時 2月25日(火) 午後2時～3時30分
 場所 世田谷区立若林図書館 レストラン付き
 内容 緑の小道整備の経緯報告と今後の予定 行政制度の説明と事例について

第2回ワークショップ

日時 3月1日(土) 午後2時～4時
 場所 緑の小道管理委員会 その他、若林図書館2階 区民フロアに移動
 内容 緑の小道を歩く～緑道のチェック(40分程度) アンケート結果と第1回のまとめ 現地チェックして見て、問題点は？

第3回ワークショップ

日時 3月12日(水) 午後2時～4時
 場所 若林図書館2階 区民フロア
 内容 維持・管理の方法・アイデアを提案するために

主催 若林駅周辺の整備(世田谷区)の推進を促す会(以下「推進会」)
 協力 世田谷区立若林図書館(以下「図書館」) 株式会社 世田谷開発研究所
 後援 財団法人グリーンランドプロジェクト
 日経ビルド社 株式会社 世田谷開発研究所・東野 電話: 03-9773-2888 FAX: 03-9773-2889

3. アンケート調査の実施方法

アンケートでは、緑の小道沿道にお住まいの方、利用者の別に以下の項目について伺うことにした。

< 緑の小道沿道の方 >

- 利用状況
- 全面開通にあたって、不安に感じる事、望むこと
- 維持・管理にご協力いただけること
- 緑の小道整備に協力いただきっかけ

< 利用者 >

- 利用状況
- 全面開通にあたって、不安に感じる事、望むこと
- 維持・管理にご協力いただけること
- お住まいのエリア

アンケートはご案内の裏面に印刷し、ワークショップの参加呼びかけと同時にアンケート調査を行った。

配布方法は、利用者については、若林三、四丁目地区を対象とし、朝日新聞と読売新聞の二紙に1,000部ずつ折り込む方法を取り、合計2,000枚を配布した。近隣に声をかけ、また、沿道にお住まいの方には、案内を封筒に入れ、約100世帯に声をかけるなどしながら、協議会が直接配布した。

回収方法については、利用者には、第1回のワークショップに持参いただくかFAXで返信してもらうことにした。より積極的な参加を期待する沿道の方には、配布時に返信用の封筒を同封し、その封筒で返信していただくかFAXで返信していただくことにした。

図表 11：利用者を対象としたアンケート

アンケート ～緑の小道のこれからは?～

Q1 現在、緑の小道を利用していますか？（一つだけ○をつけて下さい）

1. ほぼ毎日利用している 2. 週2～3回利用している
3. 時々利用している 4. ほとんど利用していない
5. ほとんど利用していない

Q2 Q1で利用していると回答された方になります。どういった利用方法でしょうか？（いくつでも○をつけて下さい）

1. 通勤・通学の送り迎え 2. 通勤・通学以外の送迎や買い物などのため
3. 散歩やジョギング 4. 近所や遠くの道の掃除や雑草への対応
5. 近所や遠くの道の掃除や雑草への対応
6. その他

Q3 緑の小道が世田谷通りまでつながれば、便利になりそうですか？（一つだけ○をつけて下さい）（いくつでも○をつけて下さい）

1. 便利になる 2. 便利になるがまだ不安がある
3. 不便になる 4. 不便になるがまだ不安がある
5. その他

Q4 周辺に緑道やせうぜん館・児童公園等、お近くの公園や広場の使われ方で気に入っていること、気に入っていないことがありましたら、お書き下さい。

緑の小道の沿道に公園がない、公園の不足が問題になっている

Q5 緑の小道に望むイメージはどういったものでしょうか？（いくつでも○をつけて下さい）

1. 散歩 2. 運動 3. 送迎 4. 散歩 5. 散歩
6. その他

Q6 緑の小道の利用者として、取り組んでみたいと思うことや興味のあることはありますか？（いくつでも○をつけて下さい）

1. 緑の小道の整備 2. 緑の小道にまつイベントの開催
3. 緑の小道の沿道の方や利用者との交流を促すイベントの開催
4. その他

Q7 差し支えなければ、どのエリアにお住まいの口をお知らせ下さい。

1. 緑の小道沿道 2. 世田谷通り沿道 3. 緑の小道の沿道以外
4. その他

ご協力ありがとうございました。
お手数ですが、このアンケートは第1回ワークショップ当日に会場へお持ちいただくか、下記の用紙先までFAXをお願いいたします。

株式会社 生業空間研究所 FAX：03-5773-3608（電話：01-5774-0494）

図表 12：沿道にお住まいの方を対象としたアンケート

アンケート ～緑の小道のこれからは?～

Q1 現在、緑の小道を利用していますか？（一つだけ○をつけて下さい）

1. ほぼ毎日利用している 2. 週2～3回利用している
3. 時々利用している 4. ほとんど利用していない
5. ほとんど利用していない

Q2 Q1で利用していると回答された方になります。どういった利用方法でしょうか？（いくつでも○をつけて下さい）

1. 通勤・通学の送り迎え 2. 通勤・通学以外の送迎や買い物などのため
3. 散歩やジョギング 4. 近所や遠くの道の掃除や雑草への対応
5. 近所や遠くの道の掃除や雑草への対応
6. その他

Q3 緑の小道が世田谷通りまでつながることで、心配になることはありませんか？（いくつでも○をつけて下さい）

1. 緑の小道の沿道の方の安全が心配になる 2. 沿道の方の安全が心配にならない
3. 安全が心配だがまだ不安がある 4. 物心心配していない
5. その他

Q4 周辺に緑道やせうぜん館・児童公園等、お近くの公園や広場の使われ方で気に入っていること、気に入っていないことがありましたら、お書き下さい。

緑の小道の沿道に公園がない、公園の不足が問題になっている

Q5 緑の小道の整備にご協力いただくきっかけとなったのは、どれでしょうか？（いくつでも○をつけて下さい）

1. 新聞記事 2. 緑の小道の沿道の方の安全が心配になる
3. 沿道の方の安全が心配になるため 4. 沿道の方の安全が心配になるため
5. 沿道の方の安全が心配になるため 6. 沿道の方の安全が心配になるため
6. その他

Q6 緑の小道に望むイメージはどういったものでしょうか？（いくつでも○をつけて下さい）

1. 散歩 2. 運動 3. 送迎 4. 散歩 5. 散歩
6. その他

Q7 緑の小道の利用者として、取り組んでみたいと思うことや興味のあることはありますか？（いくつでも○をつけて下さい）

1. 緑の小道の整備 2. 緑の小道にまつイベントの開催
3. 緑の小道の沿道の方や利用者との交流を促すイベントの開催
4. その他

ご協力ありがとうございました。
お手数ですが、このアンケートは第1回ワークショップ当日に会場へお持ちいただくか、お手数ですが、両方の用紙をご返信下さい。

お問い合わせ先 株式会社 生業空間研究所 電話：03-5773-3608 FAX：03-5773-3608

4．アンケート結果

利用者を対象としたアンケートは FAX あるいは、第 1 回目のワークショップで回収することにしたが、FAX での回答は得られなかった。緑の小道を利用する方は現時点では限られており、強く関心を持たれる方が少なかったようである。しかし、緑の小道の全面開通と、それに伴う協議会の取り組みを広く知っていただけたのではないかと考えている。第一回目のワークショップでは、6 名の参加者から回答をいただき、その結果は、図表 13 の通りである。

沿道にお住まいの方には、返信用の封筒を同封しており、これが 8 通返ってきている。これも、図表 13 にその結果の一覧を載せている。

アンケート結果の内容を見ると、現時点でよく利用している方は少ない。緑の小道が全面開通すれば、世田谷通りまで通り抜けることができるようになるため、利用する機会も増えるであろう。利用者の増加に伴い、心配になることとして、沿道の方では、「ゴミの散乱」や「ペットのフンの後始末」等があげられている。「緑の小道に望むイメージ」でも、利用者では「安全性」が最も多いが、沿道の方ではほぼ全員が「清潔感」をあげ、最も多い回答となっている。

水路敷きであったものを整備したため、幅員が 0.8m～3.8m しかなく、沿道の方から「利用者の視線が気になる」という回答が多かきに思われた。しかし、これをあげたのは、1 名のみであった。緑の小道整備にあたっては、沿道に植樹帯を設け、ツタや低木を配している。こうした配慮や行政の取り組みにより、それほど心配はしていない方が多いのではないだろうか。

整備に協力いただいたきっかけについては、回答が分散した。しかし、「沿道に住んでいる方の多くが協力するので」といった消極的な意思による方はいない。

今後「取り組んでみたいことや興味のあること」については、利用者では「花を置くなどして、表情豊かな小道にする」が最も多く、沿道の方もこれに 2 名の方が回答している。「緑の手入れをする」「イベントの開催」を含め、なんらかの形で取り組んでみたい、興味があるという方は、利用者では全員が回答し、沿道の方では 8 名のうち 5 名の方が回答している。

このため、当初は維持・管理に的を絞ったワークショップを考えていたが、緑や花の手入れといった運営面も住民が主体となって取り組む方法を検討することにした。

5．属性調査結果

沿道には、34 棟の建物が建ち並んでおり、そのうち戸建住宅が 22 棟、集合住宅が 8 棟、寮が 1 棟、店舗等が 2 棟である。世帯数を数えると 100 世帯以上になるが、集合住宅のうち 1 棟を除く 7 棟は賃貸住宅のようである。そのため、緑の小道沿道にこれまで長く住み続けており、今後も住み続けるという方は、おそらく 100 世帯を下回るであろう。このうちアンケートには、8 世帯の方から返信が返ってきている。この結果は、今後の維持・管理に対する関心度の低さと言うよりも、これまで占有していた場所に対して、積極的に関わっていくことに抵抗感があるためではないだろうか。

図表 13：アンケートの結果

| 設問 | 利用者 | 沿道の方 | その他の意見 |
|-------------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現在、緑の小道を利用していますか？ | | | |
| 1. ほぼ毎日利用している | 0 | 1 | |
| 2. 週に2・3回は利用している | 1 | 0 | |
| 3. 時々利用している | 0 | 0 | |
| 4. ごくたまに利用している | 4 | 3 | |
| 5. ほとんど利用していない | 1 | 4 | |
| どういった利用方法でしょうか？ | | | |
| 1. 通勤・通学の通り道 | 0 | 1 | <利用者> ・清掃 <沿道の方> ・一日も早く、表通りに通り抜け出来るように願う |
| 2. 通勤・通学以外でバス停や若林駅に行くため | 0 | 0 | |
| 3. 散歩やジョギング | 1 | 2 | |
| 4. 世田谷通り沿道のお店や施設へ行くため | 0 | 2 | |
| 5. 世田谷通り沿道以外のお店や施設へ行くため | 0 | 2 | |
| 6. その他 | 2 | 0 | |
| 緑の小道が世田谷通りまでつながれば、便利になりそうですか？ | | | |
| 1. 便利になる | 5 | - | 意見なし |
| 2. 不便になる | 0 | - | |
| 3. 特に変わらない | 1 | - | |
| 2-1. 不法駐輪などが多くなりそうから | 0 | - | |
| 2-2. ゴミなどが散乱し不快になりそうだから | 1 | - | |
| 2-3. その他 | 0 | - | |
| 緑の小道が世田谷通りまでつながることで、心配になることはありますか？ | | | |
| 1. 緑の小道利用者の視線が気になる | - | 1 | ・空き缶等 ・犬、ねこのフンの散乱 ・子供(小中学生含む)がたまってさわいだり、大人がかたまって大声で長時間しゃべるのがうるさい ・犯罪 犬の散歩を控える 糞の始末、犬への不信 ・ローラースケート、自転車 |
| 2. ゴミなどが散乱し不快になりそう | - | 5 | |
| 3. 不法駐輪などが多くなりそう | - | 3 | |
| 4. 特に心配していない | - | 1 | |
| 5. その他 | - | 3 | |
| 烏山川緑道やぞうさん公園・若林公園等、お近くの公園や広場の使われ方で気になっていることがありましたら、お書き下さい。 <自由回答> | | | |
| <利用者> ・(良い)季節の花、(悪い)犬のふん ・犬、猫のフンの臭いが雨の降った後特に強く、この際は遠回りします | | <沿道の方> ・幼児用の小公園のはずなのに、中・高校生や若者がいて、小児が遊べない事も ・犬やねこのフンの散乱 ・犬を綱からはずして遊ばせている人がいてこわい、ゴミの散乱 ・犬の散歩に利用し、フンの後始末をしない ・深夜、若者のたまり場になり、うるさくて眠れない | |
| 緑の小道の整備にご協力いただくきっかけとなったのは、どれでしょうか？ | | | |
| 1. 避難路として使われることになるので | - | 2 | 意見なし |
| 2. 敷地の一部が緑に面することになるので | - | 1 | |
| 3. 行政からの説明があったので | - | 1 | |
| 4. 沿道に住んでいる方の多くが協力するので | - | 0 | |
| 5. 以前から、公共的な空間として使われるのが良いと思っていたので | - | 1 | |
| 6. その他 | - | 1 | |
| 緑の小道に望むイメージはどういったものでしょうか？ | | | |
| 1. 安全さ | 5 | 5 | 道路管理者(区)に常時、注意を望む。汚れてからでは遅い |
| 2. 親近感 | 1 | 1 | |
| 3. 清潔感 | 3 | 7 | |
| 4. 明るさ | 2 | 3 | |
| 5. 静けさ | 2 | 5 | |
| 6. その他 | 0 | 1 | |
| 緑の小道の利用者として、取り組んでみたいと思うことや興味のあることはありますか？ | | | |
| 1. 緑の小道の緑を育てる | 2 | 2 | 意見なし |
| 2. 緑の小道に面して花を置くなどして、表情豊かな小道にする | 4 | 2 | |
| 3. 緑の小道で沿道の方や利用者の交流を図るイベントを開催する | 0 | 1 | |
| 4. その他 | 0 | 1 | |
| 差し支えなければ、どのエリアにお住まいか をおつけ下さい。 | | | |
| 1. 緑の小道沿道 | 1 | - | |
| 2. 世田谷通り沿道 | 0 | - | |
| 3. 1・2以外の若林町内 | 4 | - | |
| 4. その他 | 0 | - | |

6. ワークショップの開催

ワークショップの日程、各回の目的は次の通りである。

第1回ワークショップ

2月25日（火）

緑の小道整備の経過と今後の予定の確認、公園管理協定についての説明とその事例を紹介

第2回ワークショップ

3月1日（土）

実際に緑の小道を歩き、気づいた点等を抽出

第3回ワークショップ

3月12日（水）

維持・管理の方法やアイデアを実現する方法を探る

各回とも、世田谷総合支所街づくり部の街づくり課と土木課の担当者に出席をしていただいた。街づくり課は協議会のこれまでの活動にも出席をいただいております、緑の小道の整備状況を説明していただいている。土木課の工事係担当者は整備担当部署として、公園とみどり係担当者には「公園管理協定」の所管部署として出席をしていただいている。また、委託先のコンサルタントには、コーディネーターとしてワークショップの進行等をお願いした。協議会会員は、地区住民であり、かつ緑の小道の利用者としての意見が出せるよう、ワークショップに一般参加者という形で参加した。

第1回ワークショップ

日時：2月25日（火） 午後2時～3時30分

場所：世田谷区役所区民会館地階 レストランけやき

内容：緑の小道整備の経過報告と今後の予定、行政制度の説明と事例について

参加者：14名（世田谷総合支所街づくり部街づくり課2名、土木課3名、スタッフ3名、一般参加者6名）

- （プログラム）
- 1 あいさつ
 - 2 「ワークショップの目的とスケジュールについて」
 - 3 「自己紹介」
 - 4 「これまでの経緯」
 - 5 「整備状況と今後の予定」
 - 6 「公園管理協定について」
 - 7 「住民自主管理の事例」
 - 8 「公園管理協定・住民自主管理についての質疑・応答」
 - 9 「次回ワークショップの予定」

第1回目のワークショップは、今回の3回にわたるワークショップの導入部として、これまでの経緯や整備状況などを整理し、行政が用意している制度の紹介を行った。

まず、協議会の会長から挨拶があり、今後3回にわたるワークショップの目的についてコーディネーター役のスタッフから説明があった。

そして、世田谷総合支所街づくり課の担当者からこれまでの経緯をお話しいただき、世田谷総合支所の工事担当者からは、実際に図面を広げて整備状況等を説明していただいた。これまで協議会では、第1期工事部分の清掃活動を行ってきた経験もあり、その場で具体的な質問も飛び交った。

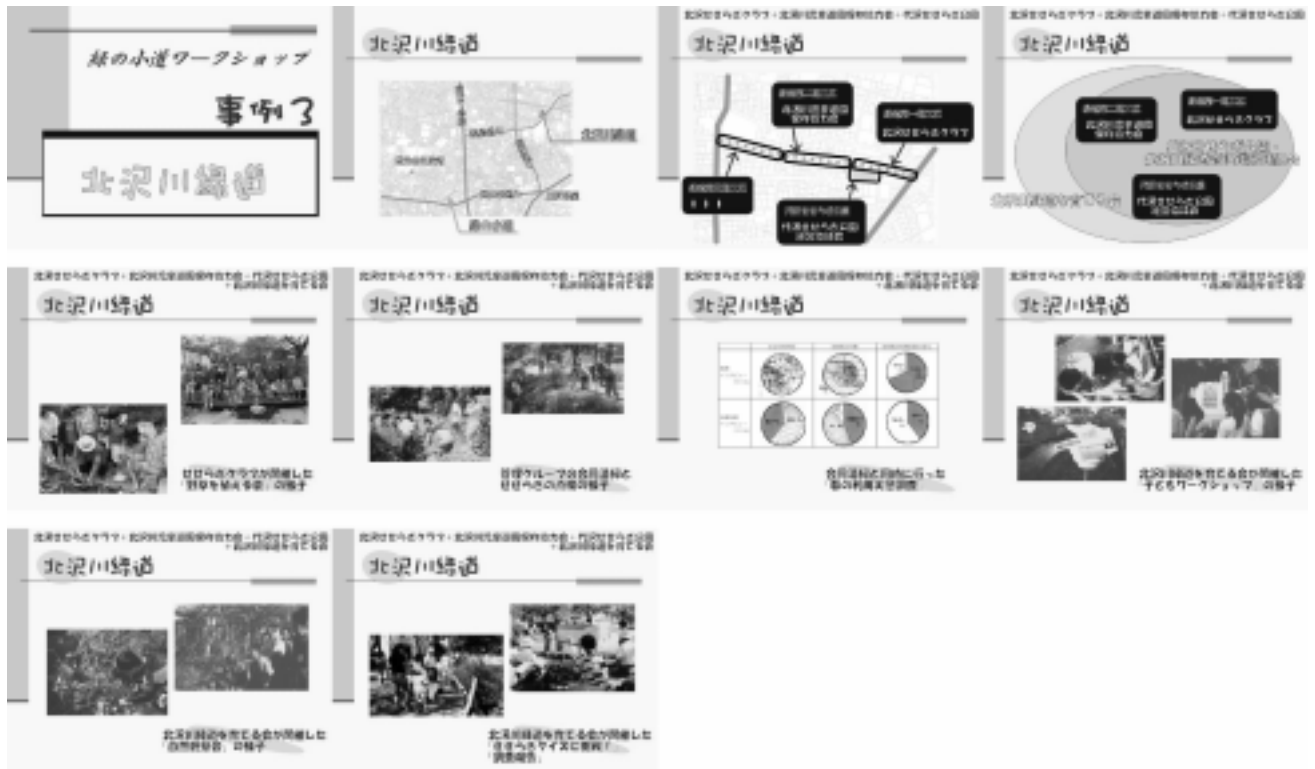
公園管理協定については、公園とみどり係担当者から、制度の説明と協定書の案をご提示いただいた。その後、コーディネーターから、公園管理協定を結んで住民自主管理を行っているグループの事例として、北沢川

図表 14：第1回ワークショップの様子



緑道の説明があった。

図表 15：住民自主管理の事例（北沢川緑道）紹介で使用したスライド



また、(財)世田谷区都市整備公社「まちづくりセンター」が行っている「エコビレッジ」のワークショップで制作した掲示板や、(財)せたがやトラスト協会が行っているプランターや花の種の助成制度も紹介された。最後に、質疑・応答が行われたが、その場ですぐ回答していただくのが難しいものもあったため、次回のワークショップの際に、まとめて回答いただくことにした。

質問の内容は次の通りである。

第1回ワークショップで出された質問や意見

- Q 1. 緑の小道は、以前は水路でしたが、今後はどういう位置づけになりますか？
- Q 2. 緑の小道内に花のプランターを置いたり、小道ギャラリーとしてモノを飾ったりできますか？
- Q 3. 公園管理協定・協定書の様式では、「区の指導で」清掃や水やり等を行うとなっています。行政と区民との関係は、パートナーシップという形が適切だと思います。協定書の様式を「区とのパートナーシップで」等と変更するよう検討してもらえますか？
- Q 4. 緑の小道を自転車で通る場合、手で押して歩くようにルール化することはできますか？
- Q 5. トヨタネットの建て替えの際に、緑の小道に面した場所について、区ではこういった緑化の指導をされましたか？
- Q 6. 緑の小道の清掃道具や草刈りの工具を置いておく物入れがあったらいいと思います。緑の小道か、接しているぞうさん公園に、そういった場所を設けてもらえないでしょうか？
- Q 7. 緑の小道の第一期工事の東側に、古い井戸があります。錆びれて雰囲気良くないのですが、撤去できませんか？
- Q 8. 緑の小道の第一期工事の東側斜面はコンクリートで無味乾燥した雰囲気です。なんとか、よい雰囲気になればいいと思いますが、所有者は誰になりますか？

第2回ワークショップ

日時：3月1日（土） 午後2時～4時

場所：緑の小道現地集合、その後若林出張所2階区民フロアに移動

内容：緑の小道を歩く～現地のチェック～、アンケート結果と第1回のまとめ、現地チェックしてみて問題点は？

参加者：12名（世田谷総合支所街づくり部街づくり課1名、土木課2名、スタッフ4名、一般参加者5名）
（プログラム）～緑の小道を歩く～

- 1 今日の手配について
- 2 アンケートと前回のまとめ
- 3 緑の小道チェック
- 4 緑の小道チェックへの回答

第2回のワークショップは、実際に緑の小道を歩くこととしたが、あいにくの雨天となった。しかし、新たに1名の方に参加していただくことができた。

現地のチェックは、チェックシートを用意し、参加者に気になった点等を記入していただく予定にしていたが、雨天のため急遽中止し、会場を区民フロアに移したところでチェックを行うことにした。

緑の小道を歩いてみて、以前から協議会が要望を出していた灌水用の水栓が設置されたことも確認することができた。また、現地を歩いてもないと気がつかなかったようなコンクリートブロックのふくらみ等危険な場所も確認することができた。

現地を歩いた後、会場を区民フロアに移し、ワークショップの案内と一緒に配布したアンケートの結果が報告された。そして、前回のワークショップのまとめとして、第2回までに課題となっていた項目についての報告があった。いくつかの項目については、検討中とのことであったが、第3回目までに回答いただけるものがあれば、お願いすることとした。

Q3の公園管理協定の協定書については、資料では検討中となっていたが、検討中の案を提示していただくことができた。「指導」という言葉を抜く形で用意されており、参加者も納得することができた。

Q6の清掃道具用の物置を設置するスペースについても、清掃道具を入れる目的に使うのであれば、「ぞうさん公園」内に物置を設置してもよいとの回答をいただくことができた。（他の回答については関連資料参照）

次に、3つのグループに分かれ、現地を歩いて気になった点を、用意されたシートに書き出していただいた。グループ内で話をすすめながらの作業で、面白い提案もいただくことができた。

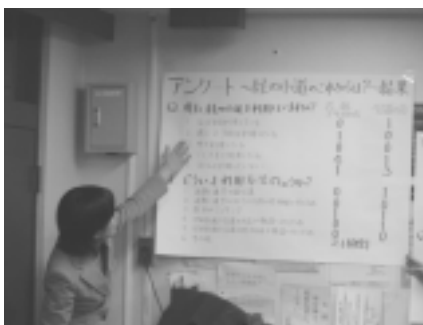
その後、一つのテーブルに全員が集まり、書き出した内容について、各自にその主旨を説明していただいた。ひとつひとつの気になる点や提案に対して、新たな疑問点が生まれたり、新たな提案を出していただいた。

このチェックした内容は、第3回のワークショップで整理し、維持・管理・運営をしていくにあたっての検討材料としていくことにした。

図表 16：緑の小道を歩いて確認



図表 17：アンケート結果の報告



図表 18：緑の小道チェックの様子



図表 19：緑の小道チェックへの回答



第2回までの報告と第3回ワークショップへのご案内

第1回、第2回のワークショップを終えて、緑の小道の維持・管理、運営に関して色々な意見やアイデアをいただいた。そこで、第3回ワークショップへのご案内を兼ねて、地区のみなさんにその内容を報告することにした。

配布方法は、最初にご案内とアンケートを配布した時と同じく、沿道にお住まいの方には、手配りで全戸に配布し、利用者として想定される若林三、四丁目地区の方には、新聞折込の方法で配布した。

図表 20：第1回・第2回ワークショップの報告と第3回ワークショップのご案内

緑の小道 ワークショップ開催のご案内

今秋、緑の小道が世田谷通りにつながります！

緑の小道は沿道にお住まいの方や土地をお持ちの方のご協力を得て、整備が進められてきました。防災上危険な状態の若林地区の改善を図るため整備がスタートし、完成後は普段は地区のみなさんの憩いの場として、災害時には避難路として活躍します。その緑の小道が、今春、一部開通し、今秋には世田谷通りまで通り抜けできるようになります。

緑の小道を身近な小道に！

そこで、沿道にお住まいの方や利用者が一緒に、緑の小道の維持・管理や運営を行い、身近な小道として親しまれるようになればと考えました。これまで2回のワークショップを開催し、下のような意見やアイデアが出てきました。



■「緑の小道」がある場所





ぜひ、ご参加下さい！

次回、3月12日(水)のワークショップでは、今後の維持・管理・運営をどのようにやっていくかを話し合います。花の手入れがお好きな方、緑の小道を利用される方、一人でも多くのご参加をお待ちしています！

第3回ワークショップ

日時 3月12日(水) 午後2時～4時

場所 若林出張所2階 区民フロア

内容 維持・管理の方法・アイデアを実現するために



会場はココです

主催 若林街づくり協議会(世田谷区の街づくり条例にもとづく団体です)

協力 世田谷総合支所街づくり部 / 株式会社 生態空間研究所(今回のワークショップをお手伝いしている会社です)

後援 財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

お問い合わせ先 株式会社 生態空間研究所・黒井 電話:03-5773-3608 FAX:03-5773-3609

第3回ワークショップ

日時：3月12日（水） 午後2時～4時

場所：若林出張所2階区民フロア

内容：維持・管理の方法、アイデアを実現するために

参加者：10名（世田谷総合支所街づくり部街づくり課1名、土木課3名、スタッフ2名、一般参加者4名）

- （プログラム）
- 1 今日の予定について
 - 2 これまでのまとめ
 - ① これまでのワークショップの確認
 - ② 公園管理協定の確認
 - 3 「緑の小道」管理・運営グループについて
 - ① グループの構成メンバーについて
 - ② グループ名について
 - 4 これからの活動について
 - ① 「緑の小道」の清掃・水やりについて（日程やペース）
 - ② 「緑の小道」を身近な小道にするために（アイデアの実現）
 - ③ 管理・運営するにあたって関係機関への提案・要望

第3回目のワークショップでは、これまでの2回のワークショップで出された意見や提案をもとに、今後の緑の小道の維持・管理、運営の具体的な方法を探ることとした。

しかし、参加者がまだ少ないことから、管理・運営グループや公園管理協定について具体的な話を進めることは難しいと判断した。そこで、次回の若林街づくり協議会の定例会で、主体となる管理グループについて検討することにし、これまで出された意見やアイデアの整理をしておくことにした。これまで、協議会では第一期工事部分の清掃活動を続けており、次回の定例会では、今後は公園管理協定を結んだ上で、協議会としてどのような活動を行っていくのかといった議論になると想定している。

こういったことから、第3回のワークショップでは、これまで出された提案や意見を「維持・管理～安全・快適な小道に～」 「運営～身近な小道に～」 「関係機関への提案・要望」の三つに分類し、ワークショップでの議論の結果を協議会内での話し合いの材料とすることにした。

まず、第2回のワークショップで、記入していただいたシートを3つの模造紙に貼り分けていき、「関係機関への提案・要望」については、回答を世田谷総合支所の担当者をお願いした。

「維持・管理～安全・快適な小道に～」に分類したものについては、清掃や水やり、設置看板の注意書きなどの意見が出された。

「運営～身近な小道に～」に分類したものについては、花の手入れや「グリーンギャラリー」等の提案がなされている。

図表 21：第3回の様子



図表 22：第3回の様子



図表 23：意見・アイデアを分類



⁵ 「公園管理協定」

「世田谷区公園等の住民参加による管理に関する協定要綱」による。日常的な公園等の管理に関し、地域住民と協定を締結することについて必要な事項を定めることにより、住民参加による公園等の適正な管理を図り、もって地域住民の意識の育成と地域連帯の醸成に資することを目的として定められている。関連資料参照。

4) 活動の成果

1. 「緑の小道」全面開通の認知

今回のワークショップでは、対象となった「緑の小道」が部分開通の状態、利用者も現時点は少ないことから、その存在を地域のみなさんにお知らせすることから活動がスタートした。まず、ワークショップのご案内に、「緑の小道」が整備された経緯を Q&A 形式で載せ、今回のワークショップの目的を明らかにした。新聞折込で 2,000 部、沿道の方には全戸に配布しており、「緑の小道」の整備の経緯と目的、全面開通については、ある程度知っていただくことができたと考えている。

2. 利用者の視点からの意見・提案の抽出

しかし、現時点で利用している方が少ないことから、ワークショップへ積極的に参加していただけるほどの関心と呼ぶことはできなかった。ただ、ワークショップに集まっていた方には、実際に完成間近の「緑の小道」を歩いていただき、利用する立場からの意見を、実感を持って出していただくことができた。

現地を行政の担当者と一緒に歩き、顔を見合わせての意見交換もできた。「コンクリートブロックがふくらみ、危険ではないだろうか？」との指摘には、調査をする予定であるとの回答をいただいた。また、「維持・管理をするにあたって、清掃用具を置く場所がほしい」との要望についても、緑の小道に接する「ぞうさん公園」内にそのスペースを設けていただけることになった。

3. 行政と市民との関係を再考

「公園管理協定」については、協定書の書面が、区と区民との関係を再考するきっかけになった。「区の指導」から「区と区民のパートナーシップ」へという参加者の意見は、今回の「緑の小道の住民主体の自主管理・運営」に限らず、行政サービスのあり方に一石を投じたものになったと考えている。

4. 沿道住民の視点からの意見・提案の抽出

緑の小道の沿道にお住まいの方には、境界確定作業からまだ 2 年しか経過していないこともあり、ワークショップへの参加は抵抗感があったと思われる。しかし、沿道の戸建住宅が 22 戸である中、8 世帯の方からアンケートの回答をいただいており、回収率は高いといえる⁶。アンケートにご回答いただいた方の中には、「不要な道なのでは？」との意見もあった。しかし、全面開通に伴う不安点をあげると同時に、自分が緑の小道で取り組んでみたいことや興味のあることについても回答をいただいている。

事前に、他地区の住民自主管理の事例を（財）世田谷区都市整備公社「まちづくりセンター」の職員にお話をうかがったが、その地区では緑道の沿道にお住まいの方、維持・管理・運営グループ、そして利用者の 3 方の立場から、当初は活動がスムーズにはいかなかったという。今回の「緑の小道」の場合は、当初から沿道の方からの反応があり、今後の運営について積極的な意見もいただいた。維持・管理・運営グループが花を植えたり、提案のあった「グリーンギャラリー」を実現して、親しみの持てる身近な小道にしていくことができれば、「緑の小道」のコミュニティの場としての意味合いに、より深く理解を示していただけるのではないだろうか。

5. 今後の活動の下地に

ワークショップでは、最終的な維持・管理・運営の方法をまとめることはできなかったが、今回出された意見やアイデアを活かし、今後の維持・管理・運営を行って行きたい。また、これらの意見やアイデアは、今後の協議会での活動の下地にもなっていくと考えている。

⁶ アンケートやちらしへの反響は、無作為抽出の場合 3/1,000、関心がややある方を対象とした場合 3/100、関心がありかつ親しい方を対象とした場合 3/10 であると言われている。

5) 今後の展開

1. 維持・管理・運営の方法について

緑の小道の維持・管理・運営の方法については、次回の若林街づくり協議会の定例会（3月26日開催予定）で、その最終的な方法についてまとめることになった。3回のワークショップを経て、現時点での整備状況等から、沿道にお住まいの方や利用者の参加がまだ十分ではない状態である。そのため、スタートとしては協議会が主体となって活動を行っていくか、協議会を主体とした新たなグループを構成し、活動を行っていくことになると思われる。

また、協議会では、これまで春と秋に講師を招き、「花の会」を定期的開催している。住環境の向上と地域住民の交流、ネットワークづくりを目的としたもので、回を重ねる毎にリピーターも多くなってきている。この「花の会」の参加者にも呼びかけて、「緑の小道」内の緑の手入れや清掃、花を育てていく活動をしていく方法も考えられる。

2. 「緑の小道」と連動した「花の会」の開催

その「春の花の会」を、緑の小道ワークショップと連動する形で開催し、関心を持っていただくきっかけをつくることができると考えていた。これまで「花の会」の講師としてお招きしてきた（財）せたがやトラスト協会の「緑の相談員」の方は、「緑の小道」の植栽樹木の選定にあたって、世田谷区から相談を受けている。そこで、「緑の小道」の「花と緑のアドバイザー」として迎え、ワークショップの際にも提案があった「花を植える」にあたって、種類の選択や手入れの方法等について指導をしていただくことも検討していた。しかし、整備が完了していないため、今回の期間内には実施することができなかった。第二期工事がほぼ終了した後の4月前半頃に実施できるよう、現在調整中である。

3. 「緑の小道」を中心としたネットワークづくり

また、「花の会」の参加者だけではなく、開通した区間を利用する方に、掲示板等を設置して呼びかけていくなどして、より広範なネットワークづくりにも取り組んでみたいと考えている。

さらに、「緑の小道」を紹介する看板を、世田谷通りからの入り口に設置することで、緑の小道は利用しないという方にも、その存在をアピールしていきたい。そのため、「緑の小道」の役割等を効果的に紹介できるように、その設置にあたっての現地調査及びデザインを行っているところである。

今後は、まず維持・管理・運営の核となるグループづくりを協議会内で行い、看板の設置やイベントの開催等により、徐々に緑の小道を避難路として、また、地域の憩いの場、コミュニティの場として定着させていくことができると考えている。

6) 活動のポイント

1. 活動の人材

今回のワークショップの開催にあたっては、コーディネーターをコンサルタントをお願いした。そして、協議会会員とワークショップの組み立て方、背景調査や住民意識調査の枠組みについて、入念な打ち合わせを重ね、ワークショップの企画・運営の指導をいただいている。

これは、協議会の会員は地域住民であり、緑の小道の利用者でもあることから、ワークショップへはその立場からも発言できるように配慮した結果である。

これにより、緑の小道内を実際に歩いて気づいた点や提案を、住民の視点から出すことができ、行政との担当者とも意見交換することができた。

2. 活動のための資金調達

「世田谷区街づくり条例」に基づき、「街づくり協議会」は（財）世田谷区都市整備公社「まちづくりセンター」から助成をいただいている。この助成金の中から、地区計画のPR看板を設置したり、防災イベント、花の会を企画・運営してきた。しかし、今回のような活動では、新たな資金が必要となるため、（財）ハウジングアンドコミュニティ財団への資金助成をお願いし、アンケート調査、緑の小道全面開通のお知らせ、ワークショップの開催を実現することができた。